

水や容器が変色する（1）

哺乳瓶の乳首が黒くなる



原因

給水管や給湯設備に使用している銅管から水道水に微量の銅が溶出し、乳首のゴム成分の硫黄と反応し、硫化銅が形成し黒色に変化する。また、空気中の細菌やカビ等の雑菌が原因となる場合もある。

対策

哺乳瓶の乳首をよく洗い、乾かす。黒く変化した場合は、乳児が使用するので新しい乳首と交換したほうがよい。

魔法瓶の中が黒くなる



原因

給湯設備から直接何回もお湯を注ぎ足すと、使用されている銅管等から微量の銅が溶出し、始めは青く、付着量が多くなると黒色を呈する。

対策

給湯設備から直接お湯を入れずに水道水をやかん・ポット等に汲んでお湯を沸かす。なお、給湯栓からは銅が溶出しやすい。

アルミニウム製容器の内面が黒変色する



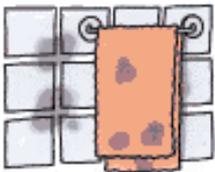
原因

アルミニウム製品の表面にアルマイト加工した腐食防止用のアルマイト被膜が、空炊や金属たわし等で破損または劣化し、素地が露出したため、水道水の微量の鉄、銅と反応し、黒変化した。※アルミニウムの黒変色現象

対策

スポンジ等柔らかい物を使用する。但し、アルミニウム製品は、丁寧に扱ったとしても長期間の使用による「アルミニウムの黒変色現象」は避けられない。※人体には無害

浴室のタイルや、水切りかご等が黒くなる



原因

浴室のタイル、トイレ、洗面所当の衛生陶器やホースの内面、タオルなど常に湿った状態にある場所では、空気中の細菌やカビ等が繁殖し、黒く着色する。※このカビはクラドスポリウム菌、オーレオパシディウム菌等で衛生的によい状態ではない。

対策

清掃や換気を充分に行う。洗剤でとれない場合は漂白剤を使用する。但し、浄化槽を使用している場合は使用方法に注意する。

洗面所やタイル等が青くなる



原因

給湯設備に使用している銅管類、青銅部材（砲金）、黄銅（真ちゅう）から銅が溶出し、石鹼の脂肪酸等と反応して青色の「銅石鹼」が生成し、洗面所やタイル等に付着するため。

対策

銅の溶出が著しい場合は、ステンレス管等への取替えが必要である。着色したタイル等は約10%のアンモニア水を少量滴下し、よく拭取り、食酢で中和し水でよく洗い流す。布等が青く染まった場合は、70～80℃に温め、食酢に浸して脱色する。

水や容器が変色する（2）

浴室、タイル、トイレ、洗面所の衛生陶器がピンクになる



原因

空気中の浮遊雑菌の中で霊菌と呼ばれる細菌が生育するとピンク色の色素を形成することがあり、その菌が汚れや湿気の多い浴室等で繁殖する場合に起こる。

対策

湿気の多い浴室等の水周りの清掃、換気を充分に行う。漂白剤の使用も効果あるが、じょうかそうを設置している場合は使用上の注意が必要である。

ふきんが紫色になる



原因

空気中に浮遊する細菌やカビ類が、汚れや湿気を帯びたふきんに繁殖して紫色のシミとなる。特に梅雨時等高温多湿の環境で発生する。

対策

ふきんを充分に洗浄し、雑菌が繁殖しないように乾燥させておくこと。定期的にふきんを煮沸洗浄することも効果がある。

浴槽の水が青く見える



原因

海や湖が青く見えるのと同じで、太陽光線の可視光線によるもの。（※特にアイボリーやホワイト系の浴槽でこの現象が顕著にみられる。）給湯設備に使用している銅管から銅が溶出している場合は、シャワーカーテン等にも青い着色を起こす。

対策

可視光線の場合は水の着色ではないので、水質的な問題はない。浴槽の場合、お湯を飲用しない限り問題はないが、給湯設備の場合は、お湯を給湯配管から使用せず、水から沸かすと銅は混入しない。

米のとぎ汁が薄緑色（うぐいす色）になる



原因

水道水のアルカリ分が異常に高くなると、米のとぎ汁と反応して薄緑色になる。pH8.5～9.0になるとこの現象が起こる。

対策

pHが高くなる原因は、新設コンクリート製受水槽や水の停滞しやすい末端のモルタルライニング部等からアルカリ分が溶出する場合である。上記受水槽の充分なあく抜き、または、水道水が停滞しやすい地域では配管内の捨水及び布設替え等が必要である。

飲み残しのお茶が紫色になる



原因

水道水中の鉄がお茶の成分タンニンと反応し、紫色のタンニン鉄が生成することによる。

対策

配・給水管等の腐食により鉄が溶出するためであり、すでに赤水障害が発生している場合が多い。原因箇所を確認し、布設替え等が必要。また、タンニン鉄自体は有害ではないが、空気中の細菌が繁殖することがあるので、容器をよく洗ってから使用する。